

「小さな防犯対策を」

栗原市立瀬峰中学校 2年

菅野 水琴 さん

私が防犯について強く意識したのは、実家で起きた事件がきっかけでした。それはおびちゃん
の葬儀を終えた夕方のことです。

葬儀の片付けも無事に終わり、私は家族や親戚達と茶の間でくつろいでいました。そのとき、おぼさんの一人が「バッグがない。」と奥の部屋から焦った表情で戻ってきました。小さなバッグだったので、最初はみんな「どこかにあるだろう。」と軽く考え、まさか盗まれたとは思っていませんでした。けれど、家中を探しても見当たらず、「盗まれたのではないか。」とみんなが言い始めました。それでも私は、自分の身近なところで犯罪が起きるとは思っていませんでした。

紛失のバッグの中には現金だけではなくクレジットカードも入っていたので何件ものカード会社に連絡をとり大変でした。そのおぼさんは「カードを悪用されたらどうしよう。」と心配していました。深夜でしたが警察にきてもらったところ「盗まれた可能性があります。」と言われました。翌朝、そのバッグは家の裏の畑で見つかったそうです。盗まれてしまった原因は、窓の鍵の閉め忘れでした。本当に小さな油断だったのです。

警察庁の資料を見ると、平成24年の侵入窃盗認知件数は11万5155件、なんと約4分30秒に一件発生しているようです。「多すぎる!」と思いましたが、これでも減ってきているそうです。私の実家で起こったのは侵入窃盗の中の居空きというものでした。それは家の人がいるときに侵入することで、侵入窃盗の約5.5%にあたるそうです。そして居空きの原因の多くは、私の実家と同じ無施錠だそうです。

このような窃盗を未然に防ぐためには、防犯システムをつけることが一番良いようですが、全ての家についているわけではありません。それでは、防犯システムをつける以外に簡単にできる対策はないのでしょうか。

実家で起きた事件のことを考えると、玄関や窓の鍵をきちんと閉めるのはもちろんですが、表からの見通しをよくすることが考えられます。また金目のものは窓から目に付かない所に置くなど、ちょっとした気配りが良い対策になると考えられます。狙う対象から外すことが重要だと思います。

さらに窃盗犯は下見をしてからその家に侵入することが多いそうです。もし怪しい人がいたら、大きな声であいさつをするとびっくりして入りづらくなるそうです。

実家の地域では区長さんが「防犯チェック」という近所の家の鍵があいていないか確かめていたそうです。しかし、以前から鍵をかける習慣がなかったので今でも鍵をかけずに出掛ける人が多いそうです。

地域でどんな活動をして一人一人の意識がなければ無駄なのです。安全に暮らすために一人一人が防犯意識を持つことが大切です。